

NO.	意見・提案概要	判定	資料	回答・計画案への反映など
1	過去からの継続など、原案に掲げられているKGIは既に決まっているのか。	【C】 その他		原案で示している指標は、過去から固定の指標ばかりではなく、目標値を更新したり、項目を新たに設定したりしています。また、現段階で決まったものではありませんので、本委員会でのご意見もふまえて設定していきたいと考えます。
2	観光入込客数やふるさと納税に関するKGIがあるが、これらを支える商業・サービス業に関するKGIがない。確かに製造業も重要ではあるが、方向性とやや不一致ではないか。	【A】 反映する	①-2	最終的に「市内での雇用を充実させる」という目標は工業・商業等に共通するため、KGIを「市内従業者数（第二次・第三次産業）」に変更します。
3	P.28 女性の半数以上が非正規雇用という課題に対して、社会保険の負担など、事業者側の受入態勢の問題への対処も必要ではないか。	【B】 参考にする		産業振興資金融資制度により事業者の資金繰りを支援するなど、事業者の経営安定に関する方向性については政策1.5に含むことと整理しています。
4	P.28 女性の半数以上が非正規雇用という課題に対して、対応が「職場復帰をしやすい」だけでは範囲が狭いので、幅広く捉えた方がよいのではないか。	【A】 反映する	①-3	記述を修正します。
5	P.29 若者や女性に関する支援は記載されているが、障がい者雇用に関する内容がないので、包括的に書いてはどうか。	【A】 反映する		基本目標3－基本方針8－政策22にて、福祉の視点から、障がいのある人の一般就労・就労定着に向けた支援についての記述をいたします。
6	大学生や専門学生たちの就職像や考え方とのミスマッチが生じていないか。また、企業誘致に関して、現時点でどのような展開を考えているのか、市としての想定があれば教えてほしい。	【A】 反映する		労働人口の流出抑制の観点から地元高校生をクローズアップしていましたが、若者帰郷率向上の視点も加え「高校生や大学生に向けた」と記述を修正します。なお、学生たちが描く就職像の変化の把握に努めていますが、市内の仕事の選択肢が少ないことが、ミスマッチの一因となっていると認識しています。また、企業誘致の展開に関しては、用地不足や働き手不足が課題であり、あらゆる業種を対象に居抜き物件への立地や民間での事業地開発などを研究しています。
7	近隣では、姫路市などでコワーキングスペースでの創業をめざして活動している人も多くなっている。宍粟市においてもコワーキングスペースの希望や活用状況などを把握できているか。	【C】 その他		都市部の企業20社による現地視察会を実施した結果などから、一定の利用希望はあるものの、立地環境がネックとなり、実際の利用頻度は低いと見込んでいます。また、市内には民間のコワーキングスペースがありますが、活況に無い状況であると認識しています。
8	北部から1時間圏内での通勤となると山崎町が限界であるなど、就職支援や企業誘致にあたり、地域（宍粟市南部/北部）の環境差も考える必要がある。	【A】 反映する	①-3	少子高齢化により働き手や事業者が減少し、人口減少が加速する悪循環について、課題として追記します。なお、産業立地促進条例に基づく助成制度において、北部地域への立地をされる場合は助成金の上乗せ措置を行うなどの誘導施策を行っています。他のご意見とも共通しますが、例えば農業においては北部では収益性の高い作物の栽培推進、南部では農地集積を進めるなど、分野ごとに必要に応じて北部・南部、また旧町ごとの地域課題や強み・特徴をふまえた整理をしたいと考えます。
9	宍粟市に豊富な林業事業体と素材生産量があるが、市外で加工されてしまうことで、宍粟材というブランドで流通できていないことが弱点と考える。ブランディングと木材加工に注目した事業者誘致ができれば良いのでは。	【B】 参考にする		NO.6と同様に、企業誘致の施策展開の際にご意見を参考とさせていただきます。なお、宍粟材のPRについては、政策6.1「特産品のブランド化を進めつつ、営業活動を通じた効果的なPRを推進します。」に含むことと整理しています。
10	P.27 森林の活用は、林業という面だけでなく、「森業」のような新しい産業として、働く場の創出に貢献することも大切だが、そのためには起業支援が必要だと考える。	【A】 反映する		森林を中心としたあらゆる市の資源を活用・結合していくことが重要であることは、基本構想「まちづくりの重要視点」に記載のとおりであり、ご意見の「森業」など、市の特徴を生かした新規創業の支援は積極的に進めたいと考えますので、その方向性としては政策2.1や政策5.3など随所に含むことと整理しています。
11	KGIの農地利用面積に関して、在来田の何%が荒れた、圃場整備田の何%が耕作放棄地になっているなど、具体的な数値を示せると市民にとってもわかりやすいのでは。	【B】 参考にする		「耕作放棄地面積（率）」は地目の変更に伴って変動し、農業の実態を表しにくい一面があることから、利用される農地の維持に主眼を置き「農地利用面積」をKGIに設定しています。市民の方へ現状を認識していただけるよう、農地利用面積の推移等の情報をお伝えしていきたいと考えます。
12	市民に農業に興味を持ってもらい、自分事として農業の問題を考えて貰うために、若者や女性向けの講習会や、しーたん放送での情報発信ができるとう良い。	【A】 反映する		ご意見のとおり、農業に関する市民の興味を高めていくことは重要と考えます。その方向性としては政策4.2に含むことと整理しています。
13	KGIで設定されている観光入込客数の数値と、参考資料で示されている数値が異なっている。	【A】 反映する	①-2	過年度実績を979千人（R1実績）と修正します。
14	P.31 観光に関しては、近隣市町で互いに良い所を出し合い共に進める、広域連携の視点も取り入れたら良いと思う。	【A】 反映する		広域連携の視点は観光・産業分野のみならず、医療・防災・教育などあらゆる面で今後重要になってくることから、基本方針12「健全な行財政運営の推進」における政策の一つとして掲げる予定です。
15	P.31 観光について、第2次総合計画では市内完結と広域連携の両面からの記述があったように、例えば発酵に関しては近隣市町とも繋がりがああるテーマなので、協力・連携する視点を加えてはどうか。	【A】 反映する		

NO.	意見・提案概要	判定	資料	回答・計画案への反映など
16	宍粟市の弱点は、観光バスや高速バスで訪れた際、地域の中、自然の中へアクセスする第二次交通が乏しいことだと考える。	【A】 反映する		ご指摘のとおり、第二次交通は観光における課題として認識しておりまして、今後の方向性として政策5.4「受け入れ体制の充実」に含むほか、政策12.5において公共交通の課題として整理しています。
17	モノ消費からコト消費となる中で、林業や農業の体験を新しい切り口の観光資源にできるのではないかと。日本ならではの体験ができるという面から、インバウンド獲得に繋がるかもしれない。	【A】 反映する		ご意見のとおり、農林業と観光の組み合わせも特色あるまちづくりに向けた可能性があると承知しています。方向性としては、政策5.1「体験型観光を推進します」に含むことと整理しています。
18	神社や公園などの地域資源を組み合わせたマップを作るのも良いと思う。観光に来た人が次にどこへ行っているのか、市で調査をしてはどうか。	【C】 その他		(公財)しそ森林王国観光協会と連携し、ホームページ上でカテゴリーごとにマップ誘導を行うなどしております。また、観光客の動向調査についてはイベント時のアンケート調査などの実施を研究しています。
19	観光プロモーションに関して、イベントや風景の成り立ち・ストーリーを伝えるようにすれば、与える印象も違ってくると思う。	【B】 参考にする		ご意見の内容は、市内外に向けたプロモーションを進めていく上で、また風景ビジョンの推進に向けても重要な視点ですので、施策展開の参考とさせていただきます。
20	宍粟市の資源をPRすることは良いことだが、来訪者が増え、地元の子どもの遊び場がなくなることはないよう、情報発信の際は配慮が必要だと思う。			
21	田舎の一軒家に住みたいが購入は難しい人や、都会で暮らしていて心が疲れた人への支援が移住のきっかけになるかもしれない。農業や移住と紐づけて取り組むのも良いかもしれない。	【B】 参考にする		空き家バンクへの登録の際、売買か賃貸かの区分は所有者の判断となりますが、空き家を検討されている方のニーズも踏まえ、賃貸の物件も掲載しています。ご意見のコワーキングスペースをはじめ、空き家の様々な活用手法については、シティプロモーションの推進とあわせて検討を進めていきます。
22	空き家は安いといえども数百万円の購入となり、ハードルは高い。空き家を資源として捉え、コワーキングスペースやシェアハウスのような色々な活用の仕方があると思う。			
23	P.32 「若者、特に女性の回帰率の低さが課題」に対する方向性として、「女性の回帰率を上げるため」というだけでは、取組の幅が少し狭いと思う。	【A】 反映する	①-4	ご指摘のとおり、宍粟市の人口動態を分析するに、女性と同じように男性(若者全体)の回帰率の低さも課題としてありますので、記述を修正します。
24	進学で宍粟市から離れた若者がそのまま就職、結婚して帰ってこない現状に対して、市内からでも都市圏へ通勤できるよう、高速バス等の充実に向けて事業者へ働きかけが必要では。	【A】 反映する		ご意見のとおり、市内に住み続けながら通勤・通学できる環境づくりを進めるよう、その考え方も政策12.5に含む整理としています。
25	計画に記載の政策について、内容はわかるが、具体的にどのような取組を行うのかが見えてこない。具体例の紹介があると、現状から目標の達成に向かう流れが見えやすくなると思う。	【B】 参考にする		具体例は個別計画や実施計画で深掘りしていき、その指針となるものが、中長期の方向性を整理した総合計画という役割分担を考えています。写真・イラストや構成の工夫により、少しでも読まれた方のイメージが着きやすいよう検討します。
26	誇りや愛着を意味する「シビックプライド」という言葉が載っているが、こういった難しい言葉ではなく、市民に伝わりやすい言葉で記載する方が良いと思う。	【B】 参考にする		「シビックプライド」は、「市民が地域に関わり、市民としての誇りを育む中で、自らが地域を良くしていこうとする当事者としての意識」という能動的な姿勢を含む概念であり、別の言葉で置き換えると、この「関与・参画の意識」を表現しきれないリスクがあります。今後、さらに普及が見込まれる概念でありますので、使い続けることで市民への浸透を促していきたいと考えています。 ※巻末の用語集に掲載し、丁寧に説明します。
27	文字と違って写真は印象付けるものであり、共通認識を持つのにも大事な要素であると思うが、写真は募集されたり、プロに撮ってもらったりするのか。	【C】 その他		写真の選定方法等については検討中ですが、イメージを共有するうえで重要だというご意見を受け止め、これから委員会にお示しした際に確認をいただければと考えます。
28	「推進します」を「進めます」といったように、わかりやすい言葉・表現で記載するほか、表記のゆれを無くし、全体として文章の統一感を図っていくことも必要。	【B】 参考にする		文章や構成の統一感を意識しつつ、原案を適宜修正していきますので、最新の資料でご確認ください。
29	地域づくりにおいて重要なことは、イベント等を主催する自分たちが楽しみ、外から来られた方に笑顔を見せることで、観光や地域の魅力発信にも繋がるのではないかと。	【B】 参考にする		「笑顔」は、まちづくりの重要視点にも掲げています「ウェルビーイングの実現」とも深く関係しますので、基本構想P.21の記述を追加します。
30	全体として、居住地や年齢にかかわらず、誰もが宍粟市と聞いて「笑顔」が思い浮かぶ地域になれば良いと考えるので、計画のどこかに「笑顔」のキーワードを盛り込めないか。	【A】 反映する	①-5	
31	行政のデジタル化については、急な変化に混乱する市民もいるので、浸透するまでのプロセスが大切であり、フォローも必要と思う。	【B】 参考にする		政策32.2において「市民の利便性を高めるためDXを進め、来庁不要な手続きの拡大に取り組みます」という方向性を示していますが、「デジタル化にあたっては弱者への配慮をしてほしい」という市民の声もありますので、施策展開の際の重要視点とさせていただきます。

## 写真等

(デザイン時に挿入予定)

## 目標指標 (KGI)

指標	単位	過年度実績値 (R2年度)	現状値 (R7年度)	目標値 (R13年度)
市内従業者数 (第二次・第三次産業)	人	17,678 (H27)	16,668 (R2)	現状値を維持
林業事業体数	社	23	27	29
農地利用面積	ha	1,338 (R1)	1,262 (R6)	1,191
観光入込客数	千人	979 (R1)	883 (R6実績)	1,110
ふるさと納税寄付金額	千円	243,916	253,556 (R6実績)	300,000

## 政策1 生き生きと働ける場の創出

---

1. 労働人口の流出抑制のため、高校生や大学生に向けた地元企業のPRによる就業促進など、若い世代の就職を積極的に応援します。
2. 事業者と求職者のマッチングを促進するため、関係機関と連携し、就職に関する相談体制を充実させるとともに、人材育成に取り組みます。
3. 仕事と生活の両立など、女性にとって働きやすい環境づくりに向けて、労働者のライフステージに応じた柔軟な働き方（ワーク・ライフ・バランス）を推進するとともに、職場でのハラスメント防止に向けた啓発を行います。
4. 中小企業・小規模企業の経営基盤の強化をめざし、6次産業化や広域連携による販路拡大・事業連携などを進めます。
5. 事業者の持続的な経営安定に向けて、経営相談や後継者育成に向けた支援を行います。

## 政策2 起業支援と企業誘致の推進

---

1. UJIターンによる起業を含め、新規創業を促進するため、商工会をはじめとする関係機関が連携し、支援体制の強化を図ります。
2. 産業団地の新規開発や、市外からの企業誘致につなげるため、用地確保を含めた可能性を引き続き研究するとともに、市内事業者の拡張・移転を支援します。

### 関連個別計画

- ◇産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画
- ◇宍粟市男女共同参画プラン

- ◇宍粟市都市計画マスタープラン

## 政策6 シティプロモーションの推進

---

1. 本市の魅力を広く伝えるため、特産品のブランド化を進めつつ、ふるさと納税制度のポータルサイトや営業活動を通じた効果的なPRを推進します。
2. 関係人口の増加に向けて、「日本酒発祥のまち」や「森林と共に生きるまち」など、郷土の豊かな歴史や地域資源を通じた魅力の再発掘に取り組みます。
3. シビックプライドの形成に向けて、市公式インスタグラムなど、SNSによる市内外に向けた情報発信を進めるとともに、市民が宍粟市の魅力に触れる機会の充実を図ります。
4. 宍粟市への愛着の醸成につなげるため、「宍粟市風景ビジョン」の意義や方向性を市民・事業者・行政で共有します。

## 政策7 移住の推進

---

1. 移住希望者へ情報を的確に届けられるよう、多様な媒体や手段を活用し、発信力の強化を図ります。
2. 空き家の活用を推進するため、空き家バンクの充実や空き家改修支援の強化を図ります。
3. 若者の定住と移住体制の充実のため、子育て世代の住宅取得支援や職業紹介など、様々な分野における横断的な連携を図ります。
4. 若者の回帰率を向上させるため、雇用環境や暮らしを支える基盤の整備のほか、生活の質の向上と交流の場の拡大につながる地域づくりを進めます。

### 関連個別計画

- ◇宍粟市風景ビジョン
- ◇宍粟市環境基本計画（第4次）

- ◇宍粟市空き家等対策計画
- ◇ふるさと宍粟の観光基本計画

## 2. まちづくりの重要視点

### (1) ウェルビーイングの実現

本市がめざすのは、市民一人ひとりが笑顔で暮らし、「幸せを実感できる」まちです。「幸せの実感」とは、単に「健康であること」というだけでなく、精神的、身体的、そして社会的なつながりのすべてが満たされた良い状態にあること（＝ウェルビーイング）を意味します。

人口減少が続くと、行政サービスや地域活動の維持が難しくなります。だからこそ、医療・福祉・教育・住環境など生活の基盤となる分野のほか、市民が交流する場や機会を充実させることが重要です。市民一人ひとりの安心の暮らしを支える環境を整えることで、コミュニティのつながりや相互支援を強め、地域が持続的に機能し続ける力を保つことができます。

日常の中で「ここに住んでよかった」と感じられる体験（＝満足感）を積み重ねることで、市民のウェルビーイングを実現し、ふるさと宍粟への愛着と誇りの醸成につなげていく好循環をめざします。

### (2) まちづくりは「ひとづくり」

人口減少の潮流の中におけるまちづくりとは、単なる施設整備や環境改善にとどまるものではなく、人と人とのつながりを深め、地域社会を育てる営みです。市民一人ひとりが役割と居場所を持ち、多様性を認め合い、互いに支え合うことで、心豊かに暮らし続けられる地域の基盤が築かれます。

また、まちづくりは行政だけで行うものではなく、市民・事業者・関係機関と行政が目標を共有し、緊密に連携することが重要です。加えて、これからのまちづくりにおいては、市民一人ひとりが持つ技術や経験、知識や知恵を出し合い、高め合い、まちづくりに主体的に関わることで、地域の活力を増幅させ、地域の新たな可能性を広げることが大切です。そして、次の世代へ引き継いでいくことにより、未来に向けて人が育ち、まちが育つ循環を生み出すことができます。

このように、一人ひとりの役割の発揮、市民と行政との連携、そして次世代への承継を重ね合わせることで、まちづくりは「ひとづくり」であるという理念を体現し、未来に向けて持続可能なまちづくりを進めます。